

「地域民族誌の方法論と人類学的空間構想力の可能性の探求」

2012 年度第 1 回研究会

日時 2012 年 4 月 28 日（土）14:00～19:00

場所 東京外国語大学本郷サテライト 8 階

要旨

2011 年 10 月に AA 研で行われた審査会でのパワポを使いながら趣旨説明。その後、趣旨説明をうけて班員がどのようにかかわるかとりあえずの反応ということ＋自己紹介（添付あり）。さらに研究会の運営と 3 年間で何を実施するのかを確認し、今年度の発表の割り当てを行う。一年目は、短めの発表を全員で行い、どのような本をつくるかより明確にするのが最大の目標。二年目以降で発表を行い、3 年目の前半には原稿を仕上げ、読み合わせを行った上で、年度末には完成原稿を作るというかたちで運営する。一年目の研究会は土日いずれかの一日開催、すべて本郷サテライトキャンパスで行う。なお、今回の欠席者にも割り当てをしてある。なお、詳細な報告は以下を参考。また投影パワポは添付あり。

1. 趣旨説明

→人類学はそれぞれの地域研究分野をどう刷新できるか？

2. 自己紹介と本共同研究への関わり

3. 研究会の運営について

（1）3 年間の計画：

1 年目 準備：本の趣旨と構成案の作成＝共同研究の趣旨の共有と、各自の立場からのフィードバックを含めた、研究目的と成果の方向性についての確立

2 年目 執筆＝研究の実施と進捗方向の報告

3 年目 出版：5 月半までに原稿収集、夏に全体調整（集成含む）、10 月に完成原稿、2 月刊行

（2）研究会の目的

運営方針＊だらだら研究会をやらない。

- ・1－2 年度は毎年全員は、年度ごとに最低一回は発表、3 年目は全体討論中心
- ・ゲストスピーカー制度をどう利用するか？

1 年目：全員で小発表（15 人）、5 人程度×3 回

2 年目から 3 年目前半（6 回分）：一回 2－3 人＋ゲスト

3 年目後半：読み合わせ、総括

（3）2012 年度の研究会計画

目的：初年度においては、第一に、本共同研究の趣旨について各成員の間で十分理解をふ

かめ、それぞれの専門分野から提示可能な研究の方向性を明確にする。第二に、相互討論することを通して、それぞれの成員の研究相互の関係を捉えるための柱を見つける。いわば本課題を構成する副課題といった領域についてある程度の合意を作ろうとするものである。これらの二つの課題を遂行する事で、本研究の視座と方法に対して成員全員が関わる形で実現可能なものに鍛え上げる事を目標とする。

地域民族誌の方法論と人類学的 空間構想力の可能性の探求 趣旨説明

高倉浩樹

AA研 共同研究

2012年度第一回研究会

番組

- 1. 趣旨説明
- 2. 自己紹介
- 3. 研究会の運営について
 - (1) 3年間の計画：
 - (2) 研究会の目的
 - (3) 実務的お願い
 - (4) **2012年度**の研究会計画

趣旨説明

- 地域民族誌（中東民族誌・・・）→社会人類学を標榜しながらも、地域研究を軽視せず
- 人類学と地域研究をめぐる理論・方法論
- それぞれの地域の人類学研究ではどのように「地域研究」を意識しているのか？
- 例1：ロシア＝ソ連研究のように、人類学が従来当該分野に認知されていない。オセアニア研究のように人類学がオセアニア研究の主流、その中間、はてまた？)

- 例2：私の場合：近現代史・現代の政治経済システム（＝既存の地域研究）とからめながらも、むしろ人類文化史の文脈でシベリア民族誌を位置づける戦略。理由、既存の地域研究だと、シベリア先住民研究はあくまでも **alternative** でしかなく、それ自体で知的なプレイクスルーの影響力は弱。常に主流が必要で、「実は・・・」という形への嫌悪感。だからといって、「無文字社会」の川田さんのような調査地の民族誌データと人類文化一般への飛躍は行わない（行えない？）
- →人類学はそれぞれの地域研究分野をどう刷新できるか？
- 個別の事例研究

自己紹介

- 京大、大学の制度、トピック
- Locality, region, area
- Value、大学内および社会内
- フィールドから見えてくる地域的連関
- 民族誌論の方にもっていくのか、民族誌なのか？
- 分野間の壁をどう乗り越えるか？
- 「方法としてのフィールドワーク・民族誌の強み」を人類学者および他の分野にどうつたえるか？
- 成果：このテーマ・・・大塚人類学

- 仮決め話題：地域研究を軸として他分野との関わり
りのなかで自分の人類学がどう存在してきたか・
どのような未来があるのか？

研究会の運営

- (1) 3年間の計画：
- 2012：1年目 準備：本の趣旨と構成案の作成＝共同研究の趣旨の共有と、各自の立場からのフィードバックを含めた、研究目的と成果の方向性についての確立
- 2013年：2年目 考察＝研究の実施と進捗方向の報告
- 2014年：3年目 前半＝考察、後半＝執筆：10月に読み合わせ原稿、2月：完成原稿
- 出版時期2016年2月（2015年12月ぐらいから）までに刊行：市販を前提として、AA研の出版助成に出す

研究会の運営

- (2) 研究会の運営方針*だらだら研究会をやらない。
- 実施計画
- 1年目：全員で小発表（15人）、5人程度×3回
- 2年目から3年目前半（6回分）：一回2-3人+ゲスト
- 3年目後半：読み合わせ、総括
- (3) 実務的お願い
- 発表の度に200-400字の発表要旨の提出お願い=AA研の事務対策

研究会の運営

- (4) 2012年度の研究会計画
- 目的：初年度においては、第一に、本共同研究の趣旨について各成員の間で十分理解をふかめ、それぞれの専門分野から提示可能な研究の方向性を明確にする。第二に、相互討論することを通して、それぞれの成員の研究相互の関係を捉えるための柱を見つける。いわば本課題を構成する副課題といった領域についてある程度の合意を作ろうとするものである。これらの二つの課題を遂行する事で、本研究の視座と方法に対して成員全員が関わる形で実現可能なものに鍛え上げる事を目標とする。
- *をめぐって意見交換と修正・確定

研究会開催日と発表割り当て

- 研究会のスタイル：集中型（一人**40分**【話題**20分**
* +質疑**20分**】+全体討論**30分**） 1時から6時
- 2012年第二回（6月16日）：高倉・椎野・飯塚・
赤堀・棚橋
- 2012年度第三回（10月後半）：大川・飯高・増
田・丹羽・（石田）・（今堀）・（信田）
- 2012年度第四回（12月+1月）：西井・齋藤・伊
藤・小西・溝口